愛と汗 ともに未来へ

創立 120 周年記念

令和７年度

第20回「SYDボランティア奨励賞」受賞者名簿

SYD SINCE 1906 公益財団法人 修養団

後 援：文 部 科 学 省

「広がれボランティアの輪」連絡会議
公益財団法人日本レクリエーション協会
公益社団法人日本キャンプ協会

受 賞 者 一 覧

（敬称略・順不同）

文部科学大臣賞

東洋大学附属姫路高等学校　地域活性部
PROJECT　TOYO　（兵庫県）

優　秀　賞

【小・中学生の部】 姫路市立安富中学校
安富町（やすとみちょうか）花あじさい復活プロジェクト　（兵庫県）

【高 校 生 の 部】 徳島県立小松島高等学校
南小松島駅活性化プロジェクト　（徳島県）

【大学・一般の部】 #（しゃーぷ）ひめじでごみひろい　（兵庫県）

特　別　賞

- 世田谷区立桜丘中学校　園芸部　（東京都）
- 徳島県立城西高等学校　植物活用科
  阿波藍専攻班　（徳島県）
- 鈴鹿大学ICC　国際交流サークル
  留学生による地域貢献活動　（三重県）

☆第 20 回SYDボランティア奨励賞には、30 都道府県より[小・中学生の部]21 件、[高校生の部]45 件、[大学・一般の部]25 件の計 91 件の応募があり、選考委員会において厳正なる選考の結果、上記受賞者が決定されました。

SYDは、1906年、東京府師範学校(現在の東京学芸大学)に学ぶ蓮沼門三を中心とする青年たちによって創立された社会教育団体です。“愛と汗の実践”を理念として「心の教育」一筋に歩み続けて120年、青少年の健全育成を中心とした様々な活動を行っており、今、みんなの幸せを願う「幸せの種まき運動」を全国的に展開しています。

文部科学大臣賞

東洋大学附属姫路高等学校　地域活性部

PROJECT　TOYO

（兵庫県）

2019 年、「地域のために何かしたい」という思いを持つ高校生 6 名から始まりました。地域農家への聞き取りを通して耕作放棄地や後継者不足といった課題を把握し、「耕作放棄地の活用」を活動の基点とし、そして「地域の活性化」と「住みやすい持続可能な地域社会の実現」を二大目標に、地域の遊休資源を活用し、多角的に社会課題の解決に取り組んできました。

環境面では、農薬や化学肥料を使わない環境負荷の低い農法を実践。廃棄食材を肥料として再利用し、土壌改良をすることで、生物多様性の保全にも貢献しました。また、除草剤を使わない耕作の重労働を軽減するため、除草ロボットの開発にも着手し、技術革新にも挑戦しています。収穫後の稲わらを地域行事に寄付するなど、資源の地域内循環も大切にしてきました。このように耕作放棄地を整備・活用し荒廃地を解消することは、街の美観維持だけでなく、害獣の住み着き防止に貢献し、安全・安心の街づくりにも寄与しています。

経済面では、耕作放棄地を借り、姫路の伝統野菜「姫路若菜」を栽培し、地元企業と連携して缶詰などの特産品を開発しました。地産地消と添加物削減にこだわり、地域経済の活性化に寄与しました。また、鹿肉缶詰の製作・販売を通じて、姫路猟友会の活動を広めました。さらに、姫路の伝統産業である革細工に着目し、皮革廃材を活用した製品づくりを通じて、資源のアップサイクルと文化継承にも取り組みました。

社会面では、地域住民との田植えや稲刈り体験、SDGs 学習会を行い、農業や資源の大切さを伝える地域全体の多世代教育交流を深め、持続可能な社会づくりへの意識向上に貢献しました。また、学校内外でのフードドライブ活動を行うことで社会貢献の意識を深く浸透させることができました。本活動を通じ、生徒の考査期間などは地域の方は草刈りを手伝ってくださり、地域の方が怪我で作業ができない時は、生徒が自主的に草刈りを行う等、地域住民との相互扶助の関係を築き、共助の精神を育んできました。

卒業生はこの活動を通し、不動産、希少動物保護、防災、教育など多様な分野で社会貢献を志すようになりました。現在は7年目を迎え、卒業生も担い手として加わり、活動はさらに広がりを見せています。今後も未来の高校生が「人や地球を笑顔にする種まき」をしてくれるよう自由な発想に基づく挑戦の機会を作り続けます。



籾種から米を栽培



耕作放棄地を活用した稲作、
地域の経験者からはざかけを学ぶ



SDGs学習の一環で地域の方と稲刈り体験



地域の経済を活性化させるため販売体験



地産地消・無添加を可能な限り追求した特産品開発、姫路の牛革・鹿革を使用した作品を製作



兵庫県立大学で除草ロボットを開発中

優　秀　賞

【小・中学生の部】 姫路市立安富中学校
安富町花あじさい復活プロジェクト　（兵庫県）

30 年前には安富町は梅雨の時期になると「ホタルとあじさいの町」として観光客でにぎわっていたそうです。シカの食害が原因で町のシンボルが危機に瀕していることを知った生徒有志が「愛する故郷のためになにかできることなないか」と安富地域貢献チームを立ち上げ、生徒の活動が地域を動かし「あじさいクラブ」が誕生しました。

町のシンボルを復活させるため、植物の専門家や農業振興センターの協力であじさいの植生や挿し木について学習し、学んだ技術を生かして挿し木苗800ポットを安志加茂神社内にある「あじさいの里」に植栽しています。あじさい花壇にはシカの食害対策として有効といわれるハーブ類を混植し実証実験を行っています。植栽時には、地域の方をはじめ、企業、行政等多様な方に参加していただくことで地域活性化へつなげ、まちづくりのイメージ共有を図っています。現在は成果が現れ、あじさいのある風景を取り戻しつつあります。

そのほか、あじさいを活用したワークショップの実施やノベルティの開発、あじさい苗やドライフラワーのプレゼントを行い、地域のウェルビーイングにも貢献しています。

また、地域の味彩フェスに出展し、あじさいの魅力の情報発信・地域課題の解決に取組んでいます。大阪万博 EXPO2025 共創チャレンジにも登録し、「輝く未来社会のデザイン」の実現と「学校・地域・PTA・企業・行政との協働・共創」のモデルを目指し、生徒の作成した PR 動画が EXPO ビジョンで流れる映像コンテンツとして全国の教育機関の中で唯一採用され、活動を世界に向けて発信しました。

さらに、プロジェクトに賛同する企業と連携するようになり海洋残滓由来の肥料を提供して頂き、林田川水系における「山と海とのサーキュラーエコノミー」として循環型プロジェクトに発展してきています。

これらの活動を通し、生徒の SDGsに対する意識が高まりアルミ缶のリサイクルやペットボトルキャップ回収にも取り組み始めました。中学生が中心に取り組むことで、地域資源・伝統文化の伝承、郷土愛を育て将来のリーダー育成につなげています。あじさいが定着し、地域の魅力のひとつとなるよう、活動を広げていきたいです。



西兵庫信用金庫さんにあじさいを贈呈。
玄関に植栽しました



エコリングさんに兵庫県の在来種「幻のあじさい七段花」を贈呈。エコリングさんからはリユース花瓶のプレゼント



あじさいの植栽を終え、安志加茂神社の前でプロジェクト参加者全員で記念撮影



プロジェクトの支援企業
タキロンシーアイ安富工場さんに
あじさいのドライフラワーを贈呈



地域のイベント味彩フェスに出展。
「あじさいの押し花を活用したブックマーカーづくり」のワークショップ



約 1 年半かけて育てたあじさいを
「あじさいの里」にプロジェクト参加者
と植栽しているところ

【高校生の部】　徳島県立小松島高等学校
南小松島駅活性化プロジェクト　（徳島県）

徳島県小松島高等学校は、地域と連携して多くのボランティア活動に日々取り組んでいます。このプロジェクトのきっかけは、駅の待合環境を改善したいと声があったからです。駅のトイレが汲み取り式であり外からの目隠しもない為トイレを利用する生徒がいない、待合用のベンチが不足している等で駅の利用に不便を感じるといった意見が全校生徒へのアンケートでも多数ありました。JR四国としては、赤字路線の南小松島駅をより多くの人たちに利用してほしいとの想いもあり、これらの現状から、小松島高校及び、小松島市を中心にプロジェクトを発足しJR四国を含む地元企業を巻き込みながら駅の待合環境の改善と地域公共交通の維持発展を目的とした活動が始まりました。

ワークショップを重ねながらアイディアをまとめ、高校生カフェを開催することに決めました。地元食材を使用したメニューにし、提供する容器やチケットは生徒がデザインしたイラストを採用しました。ボランティア活動との連携にも力をいれ、高齢者スマホ相談ブースや幼稚園児や小学生と一緒にオリジナルコースタ作りのブースも設置しました。そのほか、書道部や箏曲部がステージでパフォーマンスをしたり、運営スタッフが「ジャンボリーミッキー」を披露し会場を盛り上げました。このように、高校生が主体となり活動をすすめることができました。

高校生カフェの開催に伴い、古かったトイレの改修が行われ、待合室のベンチも増設されるなどの待合環境の改善にもつながりました。このベンチは、生徒自身が考えた背もたれや傘立てのアイディアが盛り込まれています。

企画の運営にあたり、小松島市役所の複数の課と連携してプロジェクトを進め、JR 四国とはベンチ増設や一日駅長イベントの実施など多岐にわたる協力にくわえ、南小松島駅の課題を共有し改善に向けて取り組みました。

このプロジェクトは各種メディアへの出演による広報活動や多くの地元企業や住民の皆様に協力をいただけて実現した企画です。開催資金を調達するためのクラウドファンディングでは、目標を大きく上回る金額が集まりました。

プロジェクト終了後、高校生カフェの振り返りも兼ねた小松島市長と小松島高校生の意見交換会を実施したり、高齢者スマホ相談会の開催を通じてデジタル化の推進や防災に対する取り組みを深めたりと継続的に活動を行っています。今後も、小松島高校は25年以上続く小松島松原育樹ボランティアを始め、小松島を行政や民間企業と共に様々な活動を通じて盛り上げていく予定です。



JR 四国による一日駅長体験を実施


ステージでの箏曲部演奏


高校生考案のベンチ


高校生考案のメニューを提供


南小松島駅トイレ竣工式


南小松島駅活性化プロジェクト集合写真

【大学･一般の部】 ＃（しゃーぷ） ひめじでごみひろい （兵庫県）

本団体は令和2年9月1日、「まいにちごみひろい」として発足した。設立当初は企業の広告目的による活動であり、毎日開催していたものの、地元住民との交流は少ない状況であった。その後、企業の移転や代表者変更に伴い、毎日の開催の継続が困難となった。そこで、目的を「全世代の居場所づくり」へと転換した。「未来ある子どもが安心して自分らしくいられる場づくり」、「多様な大人との出会いを通じて将来像を描ける環境づくり」 をめざし、世代を超えて愛着ある名前にすべく、名称を「#ひめじでごみひろい」に変更した。

現在は毎週土日のいずれか午前9時から活動し、年間平均約120名が参加する。毎週継続して実施する団体は珍しく、参加者は3歳から60代までと幅広い。ベトナムやドイツなど多国籍の参加もあり、世代･国籍･性別を越えた交流の場となっている。ごみ拾いを通じて自然な会話が生まれ、「拾う」行為が日常化したとの声もよく聞く。

活動の魅力向上のため、総距離役約20キロの駅伝方式ごみひろい「HAKOBE 駅伝」や環境問題を学べる「サンタのごみひろい」、婚活と掛け合わせた「恋ひろい」など、エンターテインメント性の高い企画を展開している。恋ひろいでは婚約に至った事例もあり、地域活性や少子高齢化対策への可能性も示している。関心を示してくれる層を広げるため、「#ひめじでバレボー」というバレーボールコミュニティも立ち上げた。また、韓国･天安市のアップサイクル団体と連携し、韓国でごみ拾い活動を行った。「GOMIHIROI を世界共通言語に。」をスローガンに、国際的な展開も進めている。

地元企業や行政とも連携し、清掃イベントやごみひろい授業を実施し、ごみひろいの魅力発信や環境問題への提唱も定期的に行い、スポーツ団体との合同活動など多様な実績を重ねてきた。SNS 等で地域名を積極的に発信し、地元密着型団体として認知向上にも努めている。

活動を通し、街のごみが減少していると実感を得られるほか、参加者の居場所としても機能しており、自傷行為が日常化していた方の行動が落ち着く、「挑戦すること」が生きがいとなったという方がいらっしゃり、本団体が掲げていたことが叶っているように感じる。

今年度からは学生を中心とした運営体制へ移行し、会議運営やデザイン制作、授業講師などの就労体験の機会も提供し学生の実績づくりの場としても機能している。今後は運営者育成と収益化を進め、持続可能な体制を構築するとともに、新たな企画の創出と既存イベントの改善を図りたい。ごみを「捨てる人」より「拾う人」が多い社会の実現を目指し、「GOMIHIROI」を世界に発信していきたい。



サンタのごみひろい
（プレゼント配賦後、ごみをリサイクルし翌年のプレゼントを作るコンセプト）



河川のごみひろい後の集合写真



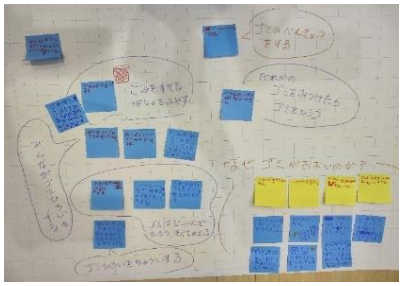
HAKOBE駅伝
20km ごみひろい完走後の記念写真



ハロウィンごみひろい



韓国･天安市でのごみひろい活動
ごみひろい後の集合写真



小学生相手に実施した環境学習プログラム
子どもと親が一緒に考えた内容の一部

特　別　賞

世田谷区立桜丘中学校　園芸部　（東京都）

本校園芸部は、「生命あるものを大切にし心を育む」、「地域と連携し、生徒の自主性・主体性を育む」を活動方針に掲げ、年間を通して園芸活動と地域貢献に取り組んでいます。令和6年度に現顧問の着任を契機として発足し、現在25名の部員が所属しています。部員は自ら年間計画を立て、種まきから収穫、販売や寄付までを主体的に行い、地域とのつながりを重視しながら農業的活動を展開している点が大きな特徴です。

隣接する保育園とは継続的に連携し、園児を招いて野菜の見学や収穫体験を実施しています。園児は土に触れ、食べ物がどのように育つかを自分の手で学ぶことで、命の尊さや自然への関心を高める貴重な体験となっています。収穫した野菜は保育園へ無償提供するほか、地域の子ども食堂や本校の放課後学習会にも寄付し、地域福祉に貢献しています。また、園児の給食残渣を堆肥として再利用するなど、環境に配慮した循環型の取組も行っています。

保育園児との収穫体験を通して「もっと地域と関わりたい」という生徒の声があがったことをきっかけに、地域連携を軸に多面的な活動へ発展しました。

学区内の小学校とは畑づくりや苗の植え付けを協働で行い、園芸部員が小学生に作業方法を教えたり、植物の成長過程を一緒に観察したりすることで、自然への理解を深めるとともに、収穫したジャガイモを理科授業の教材として提供するなど、小中連携を推進しています。東京農業大学とも交流し、大学構内で野菜販売を行い、その売上を全額寄付する活動も実施しています。これらは利益目的ではなく、地域への支援や資源循環を学ぶ実践的な教育の一環として位置づけています。

加えて、公園や駅前の花壇整備、地域清掃、神社の祭りの運営補助など、地域からの依頼にも積極的に応えています。園芸部の活動をきっかけに校内全体へボランティア意識が広がり、「ボランティア活動一覧」を掲示するなど参加しやすい環境づくりも進めています。地域住民からは感謝や期待の声が寄せられています。

一方で、定期テストや学校行事の影響で作業時間の確保が難しいという課題もあります。今後は計画的な運営を工夫し、部活動と地域連携の両立を図っていきます。

今後も園児や小学校児童、地域住民が収穫体験や四季折々の野菜・花に触れられる環境を整え、地域との交流をさらに深めていき、小中の連携の充実や地域貢献活動を持続させていきます。こうした取組を通じて、園芸部は地域に信頼される部活動としての位置づけを目指し、学校と地域を結ぶ架け橋として、教育的・社会的意義の高い活動を実践し発展させていきます。



夏季休業日中に、地域の公園の草取りをしている様子



職員室前に掲示しているボランティア活動の一覧



園芸部員が育てたジャガイモを、保育園児が収穫している様子



初めて稲づくりに挑戦している様子



園芸部生徒と園児が、保育園の園庭で花の球根を共に植える様子



職員室前のグリーンカーテンで栽培したきゅうり

徳島県立城西高等学校　植物活用科 阿波藍専攻班　（徳島県）

本校、植物活用科阿波藍専攻班は、徳島県の伝統文化であり伝統産業として栄えてきた阿波藍の伝承と発展を使命として活動しています。かつて徳島の産業を支えた阿波藍は、近代化とともに衰退し、少子高齢化も進行する中において、現在は阿波藍や農業の後継者不足が大きな課題となっています。そこで農業教育を実践する本校では、これまでの経緯を調査・研究するとともに、農業者農業関連作業の担い手として、実践的・体験的かつ協働的な活動を通して課題解決に取り組んでいます。

専攻班は2・3年生16名で構成され、「城西高校ならでは」をコンセプトに阿波藍の6次産業化を推進しています。タデアイの栽培から天然染料「すくも」の製造、灰汁発酵建てによる染色、商品開発・販売までを一貫して行い、6 次産業化を体験的に習得しています。県内の名匠から直接指導を受け、技法を継承するとともに、その魅力を全国・世界へ発信しています。オリンピックの「JAPAN ブルー」は徳島県の「AWA ブルー」であり、私たちの「OUR ブルー」であることを誇りとしています。

種子の入手困難を契機に始めた「藍の種子ネットワーク事業」では、校内採取の種子を無料配布し、16年間で応募総数5，580件を超え、全国すべての都道府県へ広がりました。また、地域の幼・小・中学校の児童・生徒、地元企業やスポーツ関係者、留学生まで幅広い対象に藍染め体験を実施し、異文化交流と郷土理解を深めています。SNS での情報発信により、全国から多くの相談や依頼も寄せられています。

2025年大阪・関西万博では、関西パビリオン徳島県ブースの記念品制作を担当し、生徒が試行錯誤を重ねて藍染めハンカチ100セットを完成させました。この記念品は、三笠宮彬子女王や秋篠宮悠仁殿下にも贈呈されました。会場では藍染めの説明を行うとともに海外パビリオンと藍染め体験を通し交流も深めることもできました。これらの成果をマスコミにも大きくとりあげられ、広く県民に阿波藍について紹介することができ、伝統技術の復活の一助となりました。

さらに近年は、藍を食べる取組、「食藍」にも挑戦し、藍葉を粉末化して菓子やパンに活用するなど新商品開発を進めています。地域イベントへの参加や校内体験教室も積極的に開催し、阿波藍を観光資源としても発信しています。

これらの活動を通して、生徒は商品開発力や探究心、コミュニケーション力を高め、地域産業の担い手、次代のリーダーとしての自覚を育んでいます。今後も6次産業化教育を発展させ、阿波藍の魅力発信と地方創生に貢献していきます。



タイパビリオンでの藍染めサポート



チェコパビリオンでの藍染めサポート



大阪・関西万博 藍染めボランティアスタッフの集合写真 in 関西パビリオン徳島県ブース



万博における VIP 用の記念品



藍畑の除草風景



藍の種子

鈴鹿大学ICC　国際交流サークル
留学生による地域貢献活動

（三重県）

鈴鹿大学 ICC(International Communication Circle)は、2022年に設立された留学生主体の大学公認サークルです。ネパール、中国、韓国、ベトナム、ミャンマーなどアジアを中心に約50名が所属し、当初は留学生同士の親睦を目的としたレクリエーション活動を行っていました。しかし、多くの留学生が日本での就職を希望する現状や、外国人に対する固定的・批判的な見方が社会に存在することを踏まえ、地域に貢献する活動を通して相互理解と共生意識を深めようとボランティア活動へ方向性を転換しました。

現在は行政、地域団体、教育機関と連携し、継続的な地域貢献活動を行っています。代表的な活動が、「NPO 法人ウミガメネットワーク三重」と協働する海岸清掃です。ウミガメ保護や海洋ごみ問題について学んだり、「プロギングみえ」との共催清掃活動で地域美化に努めています。本田技研鈴鹿製作所の森林保全活動への参加を通じ、間伐や巣箱設置などを行い、多世代との協働を経験してきました。

教育分野では、近隣校からの依頼に応じた出前授業を実施しています。2025 年には韓国人留学生が高校を訪問し、自国文化や生活を紹介するなど活発な意見交換が行われ、交流後も SNS を通じて関係を継続しています。さらに、子ども食堂「りんごの家」での調理補助や交流、「匠の里・伊勢型紙フェスタ」での子ども向け工作支援など、地域イベントにも積極的に参画しています。

官学連携としては、鈴鹿市役所のシティプロモーション活動に参加し、留学生の視点による発信が市公式 Instagram に採用されました。加えて、ミャンマー地震直後にはチャリティイベントを開催し、募金や文化紹介を通じて地域との絆を深めました。これらの取り組みは高く評価され、「みえまちキャンパス in みかん大」で優秀賞を受賞し、鈴鹿市まちづくり応援補助金事業にも採択されました。

ICC の最大の特徴は、留学生が「支援される側」から「支える側」へと主体的に関わりながら地域貢献活動を行っている点にあります。活動を通じて地域住民と心を通わせ、日本社会の仕組みや礼儀、文化を学びながら成長しています。一方で、アルバイト等で多忙な留学生も多く、今後は負担が偏らない仕組みづくりやリーダー育成を進め、より多くの学生が関われる体制を整えることが課題です。

今後も活動の意義や考え方を新入生へ継承し、情報発信強化を図り、多文化共生社会の実現に向けて地域と共に歩む活動を継続していきたいと考えています。



地域 NPO と協働し大学近辺の
海岸清掃を実施



こども食堂での子どもたちとの
交流と母国紹介



ミャンマー留学生による交流
会の企画・運営



「世界クリーンアップデー」に
合わせた大学周辺の清掃活動



小学校訪問による
母国の文化や遊びの紹介



伝統工芸「伊勢型紙」の
発信イベントでボランティア

第20回　SYDボランティア奨励賞　実施要項

公益財団法人修養団では、昭和57年より平成13年まで「蓮沼門三社会教育奨励賞」により多くの優れた社会教育活動を実践した個人、グループ･団体を顕彰して参りました。この実績を踏まえ、平成18年に創立100周年を記念し、新たに「愛と汗の精神」を信条とする《幸せの種まき運動》の実践者を顕彰する「SYDボランティア奨励賞」を設立しました。

主　催：SYD（公益財団法人修養団）
後　援：文部科学省
「広がれボランティアの輪」連絡会議
公益財団法人日本レクリエーション協会
公益社団法人日本キャンプ協会

1. 趣　旨

今日、次代を担う青少年の健全育成はますます重要な課題となっている。そこで、ボランティア活動の分野で著しい活動を実践し、優れた業績をあげたグループや個人を顕彰することにより、青少年のボランティア活動を促進するとともに、活動の習慣化を図り、生きる力や豊かな心を育むなど青少年の健全育成に寄与する。

2. 対　象

原則として、ボランティア活動を実践している学校（生徒会、クラス、クラブ等）やPTA、子ども会等のグループ及び個人

3. 選考基準

次の項目に該当し、高い評価を得られたもの

（1）ボランティア活動の分野で著しい活動を実践し、優れた業績をあげ、今後の活動に期待のできるもの
（2）ボランティア活動に創意工夫や新しい方策を取り入れ、新機軸を拓き、今後の活動に期待のできるもの
（3）ボランティア活動を受け入れ、施設の利用、改善、充実に努め、活動の活性化に寄与している施設またはそれを推進する活動
（4）青少年の健全育成を目的としたボランティア活動を実践し、将来が期待されるグループ及び個人

4. 選考方法

学識経験者等7名に選考委員を委嘱し、選考委員会にて決定する。

5. 表　彰

文部科学大臣賞　1点

クリスタルトロフィー（表彰状）、副賞（活動奨励金20万円またはSYD「青年ボランティア･アクション in フィリピン」へ1名招待）

優　秀　賞　3点

クリスタルトロフィー（表彰状）、副賞（活動奨励金10万円）

特　別　賞　3点

クリスタルトロフィー（表彰状）、記念品



6. 贈 呈 式

期日　令和８年３月２１日（土）
会場　国立オリンピック記念青少年総合センター
　　会議室（東京・渋谷区）

7. 募集方法

都道府県教育委員会、社会教育団体、青少年団体、学識経験者およびSYD組織、関係者に推薦を依頼するとともに、新聞、雑誌等のマスコミに広報を依頼する。

8. 応募方法

所定の様式に必要事項を記入し、活動報告書の上に添付して下記まで送付する。

9. 締め切り

令和7年11月28日

10. 申込み･問合せ先

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷 4-25-2　SYDボランティア奨励賞 係
TEL：03-3405-5441 FAX：03-3405-5424
E-mail：info@syd.or.jp https://syd.or.jp/

選　考　委　員　（順不同･敬称略）
明石　要一（千葉大学名誉教授、NPO 法人生涯学習応援団ちば理事長）
鈴木　優子（前[学]立教女子学院理事･法人事務局長）
冨士道正尋（全日本中学校長会事務局長）
林　　幸 克（明治大学教授）
山田　一功（[社福]ひかりの里理事長、 [公社]日本PTA全国協議会元副会長）
御手洗　康（[公財]修養団理事長）
山﨑　一紀（[公財]修養団主幹）

過 去 受 賞 者 一 覧

（敬称略・順不同）

第1回（平成18年度）

文部科学大臣賞　京都市立京都御池中学校（京都府）

優　秀　賞　**【小学生の部】** 鏡石町立第一小学校（福島県）

＊【高校生の部】該当なし　**【中学生の部】**庄原市立東城中学校（広島県）

【大学・一般の部】合同ボランティアネットワーク（神奈川県）

特　別　賞
- ◆国崎翠・吉居夏奈（北海道）
- ◆美幌町青少年育成協議会（北海道）
- ◆喜多方市山都第一小学校（福島県）
- ◆熱海市立小嵐中学校（静岡県）
- ◆加藤ひとみ（岐阜県）
- ◆伊江村立伊江中学校（沖縄県）

第2回（平成19年度）

文部科学大臣賞　香川県立多度津水産高等学校（香川県）

優　秀　賞　**【中学生の部】**木更津市立鎌足中学校（千葉県）

＊【小学生、一般の部】該当なし　**【高校生の部】**学校法人高倉学園豊橋中央高等学校（愛知県）

特　別　賞
- ◆天草市立城河原小学校（熊本県）
- ◆志布志市立通山小学校（鹿児島県）
- ◆東横学園中学・高等学校　中学2年（東京都）
- ◆多治見市立多治見中学校（岐阜県）
- ◆神奈川県立相原高等学校「相こっこプロジェクト」（神奈川県）
- ◆熊本県立盲学校（熊本県）
- ◆立命館大学国際部国際協力学生実行委（京都府）
- ◆ブラジルを美しくする会（ブラジル）

第3回（平成20年度）

文部科学大臣賞　学校法人篠ノ井学園　長野俊英高等学校　郷土研究班（長野県）

優　秀　賞　**【中学生の部】**新宮町立新宮中学校相島分校　相島少年消防クラブ（福岡県）

＊【小学生の部】該当なし　**【中学生の部】**2008 年度屋久島町立小瀬田中学校2年生「笑顔」プロジェクト（鹿児島県）

【高校生の部】更級農業高等学校　農業クラブ　農業応援団「ねこの手隊」（長野県）

【大学・一般の部】八雲ジュニアサポーターズクラブ（島根県）

特　別　賞
- ◆尾道市立三幸小学校（広島県）
- ◆鳴門市第一中学校　ボランティア部（徳島県）
- ◆富山県立小杉高等学校　生徒会（富山県）
- ◆富貴中おやじの会（愛知県）
- ◆高知朝倉里山を造る会（高知県）

第4回（平成21年度）

文部科学大臣賞　豊田市立崇化館中学校　麦の会（愛知県）

優　秀　賞　**【小学生の部】**日吉子どもサミット（滋賀県）

＊【一般の部】該当なし　**【中学生の部】**名古屋市立はとり中学校（愛知県）

【高校生の部】中央学院高等学校　生物部（千葉県）

特　別　賞
- ◆SYD北海道クラブ（北海道）
- ◆横浜市立岡村中学校（神奈川県）
- ◆長野県飯田風越高等学校国際教養科3年（長野県）
- ◆みんなでつくる学校　とれぶりんか（大阪府）
- ◆広島文化学園短期大学　食物栄養学科（広島県）

第5回（平成22年度）

文部科学大臣賞　高知大学　高知子ども守り隊　守るんジャー（高知県）

優　秀　賞　**【小学生の部】**御前崎市立御前崎小学校（静岡県）
【中学生の部】京都市立嵯峨中学校（京都府）
【高校生の部】江楠学園　北陵高等学校　生徒会（佐賀県）
【大学・一般の部】東海大学海洋学部環境サークル　E.C.O（静岡県）

特　別　賞　◆清水町立清水中学校　劇団8・9組（静岡県）
◆宮城県立塩釜高等学校地生化班塩釜ぼんぼん（宮城県）
◆愛知県立日進高等学校（愛知県）
◆京都精華大学ホスピルアートボランティアグループ（京都府）

第6回（平成23年度）

文部科学大臣賞　善通寺市立東中学校　ボランティア部（香川県）

優　秀　賞　**【小学生の部】**御蔵島村立御蔵島小中学校　黒潮会（東京都）
【中学生の部】港区立青山中学校　お話会（東京都）
【高校生の部】岡山県立久世高等学校　家庭クラブ（岡山県）
【大学・一般の部】西部点字パソコンサークル・ステップ（静岡県）

特　別　賞　◆大和市立渋谷中学校（神奈川県）
◆新潟県立柏崎工業高等学校　防災エンジニアコース3年生、2年生（新潟県）
◆栃木県立栃木農業高等学校　村おこしプロジェクト班（栃木県）
◆出雲西高等学校　インターアクトクラブ（島根県）
◆播磨マリンクルー（兵庫県）

第7回（平成24年度）

文部科学大臣賞　埼玉県立桶川西高等学校　科学部（埼玉県）

優　秀　賞　**【小・中学生の部】**藤岡市立東中学校　生徒会（群馬県）
【高校生の部】盈進中学高等学校　ヒューマンライツ部（広島県）
【大学・一般の部】旭川医科大学　育児院学習サポート（北海道）

特　別　賞　◆喜多方市立第三小学校（福島県）
◆Ｖ．Ｃ．イヤリング（愛知県）
◆東京都立大島海洋国際高等学校　ボランティア部（東京都）
◆網地島ふるさと楽好　（宮城県）

第8回（平成25年度）

文部科学大臣賞　鳥取大学　障害児教育研究会（鳥取県）

理事長特別賞　石巻市立牡鹿中学校「笑顔創造プロジェクト」（宮城県）

優　秀　賞　**【小・中学生の部】**宇都宮市立泉が丘中学校（栃木県）
＊**【大学・一般の部】**該当なし　**【高校生の部】**京都府立宮津高等学校　建築科（京都府）

特　別　賞　◆北海道小樽工業高等学校ボランティア同好会（北海道）
◆福島県立平工業高等学校　生徒会（福島県）
◆身延山高等学校　手話コミュニケーション部（山梨県）

第9回（平成26年度）

文部科学大臣賞　いなべ市立大安中学校テクニカルボランティア部（三重県）

理事長特別賞　東洋大学学生ボランティアセンター（東京都）

優　秀　賞　**【小・中学生の部】**塩尻市立楢川中学校雪かきボランティア（長野県）
＊**【大学・一般の部】**該当なし　**【高校生の部】**岩手県立久慈工業高等学校（岩手県）

特　別　賞　◆青森県立名久井農業高等学校 TEAM FLORA PHOTONICS（青森県）
◆末吉っ子支え隊（愛知県）

第10回（平成27年度）

文部科学大臣賞　熊本市立天明中学校　生徒会（熊本県）

理事長特別賞　千葉黎明高等学校（千葉県）

優秀賞　**【小・中学生の部】**沼津市立片浜中学校　生徒会（静岡県）
【高校生の部】山口県立柳井商工高等学校まちづくりプロジェクトチーム（山口県）
【大学・一般の部】西九州大学　ESRDサークル（佐賀県）

特別賞　◆渋川市立渋川南小学校（群馬県）
◆北海道函館水産高等学校　北のくにづくり2015（北海道）
◆高知県立中村高等学校西土佐分校　地域ボランティア隊Rapport（高知県）
◆国際基督教大学　劇団虹（東京都）
◆摂南大学　ボランティア・スタッフズ（大坂府）

第11回（平成28年度）

文部科学大臣賞　豊後高田市立戴星学園（大分県）

理事長賞　神奈川県立吉田島高等学校　草花部（神奈川県）

優秀賞　**【小・中学生の部】**唐津市立浜玉中学校（佐賀県）
＊【大学・一般の部】該当なし　**【高校生の部】**大森学園高等学校　おもちゃの病院（東京都）

特別賞　◆長野県下高井農林高等学校　園芸福祉クラブ（長野県）
◆九中校区すこやかネット（大阪府）

第12回（平成29年度）

文部科学大臣賞　兵庫県立舞子高等学校　天文気象部（兵庫県）

優秀賞　**【小・中学生の部】**名古屋市立北山中学校　ボランティア部　（愛知県）
＊【大学・一般の部】該当なし　**【高校生の部】**東京都立大島高等学校　カメリアユナイテッド（東京都）

特別賞　◆広島県立広高等学校　書道部（広島県）

第13回（平成30年度）

文部科学大臣賞　多摩市立東落合小学校　ゴミ出しボランティア（東京都）

優秀賞　**【小・中学生の部】**北九州市立霧丘中学校
特別支援学級「econnect project」（福岡県）
【高校生の部】宮城県名取北高等学奉仕活動部（宮城県）
【大学生の部】BLUE WALK（愛知県）

特別賞　◆名古屋市立工芸高等学校　WEB部（愛知県）
◆名城大学　ボランティア協議会（愛知県）

第14回（令和元年度）

文部科学大臣賞　島根県立大学　献血サークル　あかえんぴつくん（島根県）

優秀賞　**【小・中学生の部】**稲城二中シンガーズ（東京都）
＊【大学・一般の部】該当なし　**【高校生の部】**名古屋市立工芸高等学校　防災チーム（愛知県）

特別賞　◆復興支援東北の物産販売　高校生プロジェクトin岩見沢（北海道）
◆宮城県農業高等学校　次世代の被災地語り部ボランティア（宮城県）

第15回（令和2年度）

文部科学大臣賞　北九州市立大学　地域共生教育センター　子ども食堂応援プロジェクト（福岡県）

優秀賞　**【小・中学生の部】**刈谷市立雁が音中学校（愛知県）
【高校生の部】青森県立名久井農業高等学校　5代目　TEAM　PINE（青森県）
【大学生の部】ベイラー大学　ベイラー・イン・ジャパン（アメリカ）

特別賞　◆名寄市立名寄東中学校　ボランティア部（北海道）
◆福島県立平工業高等学校　生徒会（福島県）

第16回（令和3年度）

文部科学大臣賞　唐津南高校　虹の松原プロジェクトチーム（佐賀県）

優　秀　賞　**【小・中学生の部】**姫城中学校　姫ボラ（宮崎県）

【 高 校 生 の部】群馬県立大泉高等学校　植物バイオ研究部（群馬県）

【大学・一般の部】東京家政大学ヒューマンライフ支援センター
地域小学校との食育連携プロジェクト（東京都）

特　別　賞　◆山鹿市立鹿北中学校　生徒会（熊本県）

◆熊野高等学校　Kumano　サポーターズリー

第17回（令和4年度）

文部科学大臣賞　札幌市立宮の森中学校　科学部　科学工作ボランティア（北海道）

優　秀　賞　**【小・中学生の部】**陸別町立陸別中学校　ボランティア部（北海道）

【 高 校 生 の部 】福岡県公立古賀竟成館高等学校　家庭クラブ（福岡県）

【大学・一般の部】山口学芸大学　ボランティアサークル　子どもの木（山口県）

特　別　賞　◆福島きずなプロジェクト　廣瀬　はる（神奈川県）

第18回（令和5年度）

文部科学大臣賞　富田林市立第一中学校　人権サークル（大阪府）

優　秀　賞　**【小・中学生の部】**猪苗代町立猪苗代中学校　総合文化部（北海道）

【 高 校 生 の部 】奈良県立商業高校　部局たまつえ（福岡県）

【大学・一般の部】（3.11）∞実行委員会（東京都）

特　別　賞　◆ポテトプロジェクト（兵庫県）

◆上越高等高校　サッカー部（新潟県）

第19回（令和6年度）

文部科学大臣賞　宮城県農業高等学校　桜プロジェクトチーム（宮城県）

優　秀　賞　**【小・中学生の部】**松茂町立松茂中学校（徳島県）

【 高 校 生 の部 】愛知県立安城高等学校　ハッピーキッチン（愛知県）

【大学・一般の部】学生NGO　ALPHA（東京都）

特　別　賞　◆うるま市立津堅小中学校（沖縄県）



SYD「幸せの種まき運動」と

ーみんなでまこう！幸せの種ーをスローガンとして、まわりの人々に、社会に、一粒でも多くの‘幸せの種’をまいていこうという運動です。
さりげなく、よろこんで、出来るだけ‘幸せの種’をまいていきましょう。
種をまくときは、あなたの“笑顔”という栄養分を添えて！

《三つの‘幸せの種’》

☆こんにちは！という
‘ふれあいの種’
☆どうぞ！という
‘思いやりの種’
☆ありがとう！という
‘よろこびの種’